

「連合2024 平和行動 in 広島」派遣団報告

語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で 核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう

～被爆79年 連合平和ヒロシマ集会に、全国から1,780名が結集～

「連合2024 平和ヒロシマ集会」が8月5日（月）上野学園ホールにおいて、全国から1,780名の仲間が結集して開催された。

連合福島からは、双葉地区連合の近野 悟史議長を団長に8名が参加した。集会に先立ち、近野団長が連合福島を代表して平和の折鶴を献納した。

連合広島女性委員会の中桐由紀子副事務局長の司会で集会がはじまり、参加者全員で黙



平和行動 in 広島への参加者

とうを行った後、主催者を代表して、連合芳野友子会長が挨拶した。その後、地元連合広島大野真人会長、来賓として広島県玉井優子副知事、広島市村上慎一郎市民局長、国際労働組合総連合（ITUC）リュック・トリアングル書記長からそれぞれ挨拶があった。

その後、中国新聞社宮崎智三特別論説委員より「被爆80年に向けて 被爆地広島の課題と役割」と題して講演があり、続いて広島県原爆被害者



平和の折鶴を献納する近野団長

団体協議会・被爆を語り継ぐ会の箕牧智之さんより当時の被爆体験が語られた。

その後、若者からのメッセージとして、26代高校生平和大使より活動報告、27代高校生平和大使よりメッセージがあった。続いて連合広島大野会長から連合長崎高藤会長へピースフラッグリレーが行われた。最後に全員参加で「平和アピール」を採択し「ヒロシマ集会」は閉会となった。

集会終了後、原爆ドーム前広場に場所を移し献花・献水を行い、原爆の被害で亡くなられた方々を偲び、慰霊を慰めた。

翌日の8月6日（火）、平和記念公園は厳戒な警備態勢で

あったため、会場外から黙とうを捧げた。

平和ヒロシマ集会と平和視察研修を通じ、世界で唯一の被爆国である日本から核兵器廃絶と世界の恒久平和実現に向けて尽力することを宣言し、平和運動がさらに広がり、戦争のない平和な世界が実現することを広島の空へ改めて願った。

広島暑い暑い3日間だったが、近野団長のもと団結してその役割を果たす事が出来た。参加者の皆様に改めて感謝申し上げ報告とする。

（記：事務局 佐藤）



原爆ドーム前で



挨拶する連合芳野会長